

## 第三者評価結果報告書

### ①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

### ②施設・事業所情報

名称：	戸塚愛児園	種別：	認可保育園	
代表者氏名：	施設長 小沢 悦子	定員（利用人数）：	190（194）名	
所在地：	244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町167			
TEL：	045-881-8735	ホームページ：	<a href="http://www.kanagawa-doen.jp/totsuka-aijien/">http://www.kanagawa-doen.jp/totsuka-aijien/</a>	
【施設・事業所の概要】				
開設年月日	1956年10月31日			
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 恩賜財団 神奈川県同胞援護会			
職員数	常勤職員：	38 名	非常勤職員：	16 名
専門職員	保育士	41 名	栄養士	3 名
	看護師	1 名	調理員	3 名
	業務員	1 名	事務員	2 名
	保育補助	2 名		
施設・設備の概要	居室数：	保育室10室、調理室、事務室、ホール、ランチルーム、園庭、ライブラリー		
		設備等：	屋上園庭、エレベーター、監視カメラ	

### ③理念・基本方針

- 保育理念： 1. 児童福祉法に基づき、子どもの人権や主体性を尊重するとともに、子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的にすすめる。
- 保育方針： 1. 地域社会との連携を図り、全ての子育て家庭の支援を行う。
2. ”のびのび いきいき なかよし ゆめいっぱい” を目標に、豊かな人間性を持った子どもの育成のため、家庭と地域と協力し合う。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

園は、東海道線及び横浜市営地下鉄ブルーラインの「戸塚」駅より徒歩10分ほどの住宅街にあります。

1956年3月に、戸塚福祉会館戸塚愛児園として開設し、同年10月に保育所の認可を受けています。定員は190名で、2008年に現在の新園舎が完成しています。

園の近くには、柏尾川沿いの遊歩道があり、子どもたちはあじさいや桜などの花や樹木に触れたり、虫捕りや葉っぱ拾いをしたりして、季節の移り変わりを感じながら、散策を楽しんでいます。

大型遊具のある広い園庭のほか、園舎内のホール、屋上などがあり、子どもたちが伸び伸びと体を動かして遊べる環境を整備しています。3～5歳児クラスでは、外部の指導者による体操の活動を取り入れて、身体を動かす楽しさを体験すると同時に、話を聞くことやルールを守ることなどの大切さを伝えています。また、散歩やリトミック、食育活動など、異年齢での活動も日常的に取り入れて、子どもたちがさまざまな体験を通して、相手を思いやる心をはぐくめるよう保育を実践しています。

運営法人では、当園を含めて10園の保育所を運営し、保育部会のほか、主任会議、保育リーダー会議、栄養士会議などで情報交換を行うなど、学び合う機会を多く設けて、互いの意識向上につなげています。

地域の未就園児を対象にした「つぼみくらぶ」での園庭開放や交流保育などの取り組みのほか、育児相談を随時受け付けたり、専任職員を配置して一時保育の受け入れを積極的に行ったり、「同援ジャー」と名付けたキャラクターを活用して周知活動を行いながら、地域支援に取り組んでいます。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年7月4日 (契約日) ~ 2023年2月1日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	3 回 ( 2017 年度)

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

##### ◆園の役割と存在意義を明らかにして、職員全体で取り組みを進めています

園では、保育理念や保育方針、保育目標の実現を旨として、子ども一人ひとりを尊重した保育の実践、保護者との信頼関係の構築、地域交流や地域支援を広げるための取り組みなど、園の役割や存在意義、園の目指す保育の方向性を職員全体で確認し合っ共同認識を深めながら取り組みを進めています。保育の専門性を高めるための研修受講や情報の共有、自らの保育実践に対する自己点検、日々の保護者とのコミュニケーションを大切に子どもを育ちを双方で見守る関係性の構築、一時保育や園庭開放、交流保育などを担当する職員を配置して職員が主体的に運営にかかわりを持って取り組む体制づくりなど、職員全体で意欲的に取り組みを進めています。

##### ◆職員の意識向上を図りながら、主体性を大切にして保育を実践しています

職員一人ひとりが、自身の保育に対する思いや保育を行ううえで大切にしていることなどを記した付箋を、模造紙に描かれた「あいじえんの木」に貼って掲示し、職員間で共有できるようにしています。互いの保育観について理解を深めることで、個々の意識向上を図りながら、チームとして保育に取り組めるようにしています。園長は、子どもにとって最善の方法を考えて保育にあたることを職員に伝えています。職員は、子どもが自分で考えて遊びを展開できるよう環境整備を行っているほか、子どもが前向きに取り組めるような声かけを行って、小さな成功体験を積み重ねられるよう援助するなど、子どもの主体性を大切にして保育の実践につなげています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育の見直しを行なう中で今後の課題が明確になりました。各自の自己評価を基にクラスでまとめたものを第三者評価委員会と保育リーダー、主任、施設長が話し合い、見直してまとめてきました。当園は職員数が多く、共通理解をしていくことの難しさを感じていましたが、自己評価をすることで『何が大切なのか』を個々に知ることができ、更に自分が取り組むべきことを見出せました。職員の気持ちが同じ方向に軌道修正できたように思います。

アンケートに答えて頂いた保護者の方々の想いを受け止め、二人三脚で子どもの育ちを支え合うと共に評価者の方々にご指導いただいたことを裏切ることの無いように子どもの最善の利益を保障した保育に向けて精進していきたいと思えます。

ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり